

～産業を支える物流拠点の整備～

釜石港公共埠頭拡張工事が完了

釜石地方振興局



新たに整備された水深 11m の岸壁

○ 釜石港の沿革

釜石港は、県の南東部に位置する天然の良港です。江戸時代には漁港基地として、また、東廻り海運の重要港として繁栄し、国営製鉄所が建設されたことにより発達し、港湾貨物量は、製鉄所の拡大とともに急増しました。大正 1 年に内務省の指定港湾となり、昭和 9 年には本県最初の開港となっています。

明治 7 年：官営製鉄所の建設

大正 1 年：内務省の指定港湾となる

昭和 9 年：岩手県初の開港（開港－国際貿易のための港を開くこと）

昭和 26 年：重要港湾に指定（重要港湾－国際海上輸送網や国内海上輸送網の拠点となる港湾）

昭和 46 年：水深 7.5 m 公共岸壁の完成

昭和 53 年：世界最大水深 63.0 m の湾口防波堤の建設に着手

平成 4 年：水深 11.0 m 公共岸壁と水深 7.5 m 耐震強化岸壁の建設に着手

平成 15 年：総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定

（リサイクルポート－廃棄物やリサイクルに関わる物資の物流拠点）

平成 19 年 3 月：湾口防波堤概成・水深 11.0 m 公共岸壁と水深 7.5 m 耐震強化岸壁完成

・新仙人峠道路開通 産業を支える港湾と道路の一体的整備。

○ 公共埠頭拡張工事の概要

・岸壁が3箇所

既設の水深7.5m岸壁に加え、岩手県唯一の耐震強化岸壁（水深7.5m）と多目的国際ターミナル（水深11.0）を増設。

・埠頭用地が拡大

既存から3.3ha増え8.7haに拡大。

・将来的に外国との直接貿易が行なわれることを想定し、テロ事件等に対する保安施設を強化。



新たに整備された埠頭用地3.3haの全景

○ 現在とこれからの釜石港

近年は、トヨタの陸揚げ・積出し、配合飼料の輸入、IPP 石炭火力発電事業に伴う石炭の輸入が段階的に開始され、平成15年には、国土交通省より、全国でも数少ない総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定されました。

また、昨年12月には、横浜港から外国船に積み込む荷物をコンテナ化して輸送する内航フィーダーコンテナ航路の試験事業を実施しました。定期航路化に向けて、荷物の確保や港湾機能拡充の取り組みが今後も続けられます。

新仙人峠道路開通との相乗効果により、釜石港はますます活発化し、『岩手と世界を結ぶ物流拠点』として躍動していきます。

釜石地方振興局から

タイトなスケジュールの中で打ち合わせを繰り返し、事故無く現場を完成させた施工業者・現場の方々、工事にご協力頂いた釜石市民・企業の方々に心より感謝申し上げます。

問い合わせ先 釜石地方振興局 Tel.0193-25-2708